

「災害対応技術」、「構造物保全技術」を募集します！

- 四国地方整備局では、平成20年11月26日に開催した第2回新技術活用評価委員会において承認された、「災害対応技術」、「構造物保全技術」を募集します。
- 募集技術は以下の3テーマ。

<災害対応技術>

●『デジタルカメラのみによる非接触測量技術』

(デジタルカメラのみで被災現場に入らずに測量ができる非接触測量技術)

災害発生時には迅速に被災状況を把握する必要がありますが、被災現場への立ち入りが困難な場合は、詳細な状況把握が出来ません。そこで、被災現場に立ち入らないで、被災現場の詳細情報が得られるデジタルカメラのみによる非接触測量技術を募集します。

<構造物保全技術>

●『保全点検技術(コンクリート構造物)』

(コンクリート構造物の劣化・損傷状況を簡易に把握できる保全点検技術)

構造物への影響を考慮し、はつり等の破壊手法を用いず非破壊で調査・点検が行える技術を募集します。

●『排水性舗装の長寿命化技術』

(排水性舗装の耐久性向上、長寿命化のための技術)

現在の排水性舗装は、交差点部においては急ブレーキ・急発進によるわだち等の発生で、直線部と比較して短期間での修繕が必要となっています。このような背景をふまえて排水性舗装の耐久性の向上・長寿命化を可能にする技術を募集します。

- 応募された技術のうち、活用効果が高いと思われるものについては、四国地方整備局管内の事業・実現場において、実際に使用し、その機能・性能などを確認・評価します。また、評価結果は、新技術情報提供システム(NETIS)で公表します。

NETIS(新技術情報提供システム)：<http://www.netis.mlit.go.jp/EvalNetis/NewIndex.asp>

- 応募の方法・様式等については、下記の受付・問合せ先に連絡、または四国技術事務所のホームページをご覧ください。

■応募期間：平成21年1月16日(金)～平成21年6月15日(月)

■応募受付先：四国地方整備局 四国技術事務所

TEL:087-845-3135、FAX:087-845-3998

http://www.skr.mlit.go.jp/yongi/s_thema/s_thema-f.html

平成21年 1月15日

<問い合わせ先>



国土交通省 四国地方整備局

企画部

施工企画課長

みやもとまさし

宮本 正司 (087-851-8061 内線 3451)

施工企画課長補佐

もとにしんじ

元木 真二 (087-851-8061 内線 3453)

四国技術事務所

副所長

おしづたかひろ

鷲津 隆廣 (087-845-3135 内線 204)

＜災害対応技術公募の目的＞

災害リスクの高い四国地域の災害対応力向上のため、災害発生時には応急復旧のために簡単に迅速に現地情報を把握できることが重要です。

そこで、被災現場への立ち入りをせず、詳細情報の把握ができる非接触測量技術が求められています。

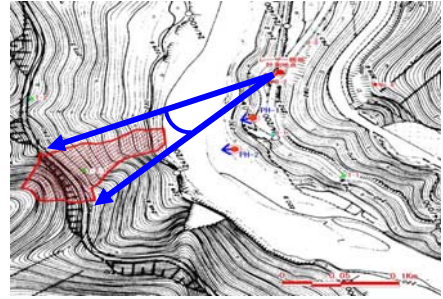
○デジタルカメラのみを使った測量技術

被災現場に立ち入らないデジタルカメラのみによる非接触測量技術を公募します。



作業イメージ

対岸より赤範囲を測量



【非接触型の測量技術(イメージ)】

＜構造物保全技術公募の目的＞

重要構造物としてのコンクリートの健全状態を把握することは、土木構造物の保全を行う上で大変重要なことです。そこで、構造物への影響を最小限にするコンクリート非破壊検査が効率的に行える新たな点検手法が求められています。

また、排水性舗装は多くの路線で安全性、走行性・沿道環境の向上を目的として採用されています。しかし、交差点部においては短期間での修繕工事の実施など排水性舗装技術の耐久性の向上、舗装の長寿命化が求められています。

○保全点検技術(コンクリート構造物)

従来の劣化・損傷調査は部分はつり等で対応していましたが、構造物への影響を考慮し、非破壊で点検が行える保全点検技術を募集します。



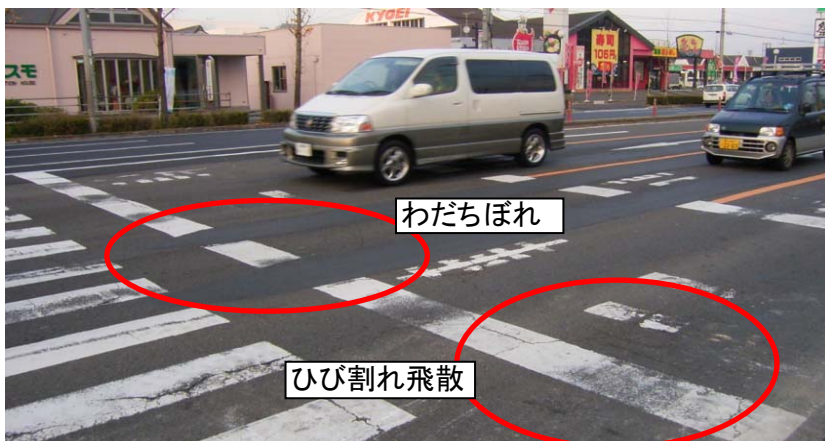
【非破壊検査装置の例】



【ひび割れ調査機器の例】

○排水性舗装の長寿命化技術

排水性舗装の耐久性の向上、長寿命化を可能とする排水性舗装技術を公募します。



【交差点近接部の舗装の損傷状況】